

活動報告

団 体 名	一般社団法人 Wellbe Design
活 動 名	胆振東部3町の被災者支援を円滑にするための体制を整備するための活動
活動期間	2018/09/06 ～ 2019/03/31
活動の成果	当法人では発災当日午後から被災地域に支援に入り、全社協や中央共募を含めた外部の機関や支援団体との調整を開始。各種団体との情報共有を目的としたfacebook ページ「北海道災害・情報共有グループ」を開設・管理した。これらによる効果もあり、報道が集中した厚真町以外の安平町及びむかわ町へのボランティア活動者の確保につながったと感じている(3月31日現在、厚真町 4,780 人、安平町 4,999 人、むかわ町 3,103 人)。また、むかわ町社会福祉協議会が開設した災害ボランティアセンターの運営者や運営支援者へのサポートと共に、支援 P が開設したむかわ町災害 VC の公式 facebook ページの運営管理をむかわ町社協からの依頼を受け実施したことにより、情報発信技術に乏しいむかわ町社協へのフォローと職員の省力化が図れただけでなく、タイムリーな情報の発信とボランティア受け入れや問い合わせ対応が実施でき、結果的にボランティア活動者の確保につながったと感じている。また、むかわ町災害ボランティアセンターでは応急仮設住宅の入居時における引っ越しボランティア活動を行わなかったことから、当法人が窓口となり行政と共に対応したこと、行政との連携が構築されただけでなく、その後の仮設住宅入居者を対象とした DIY 講習会などの生活支援活動に結び付いた。被災家屋から寄せられた思い出の品や写真・アルバムなどのサルベージ活動「Omoidori Project」は被災した方の思い出に寄り添い、大切な遺品を守り抜く活動となっているが、こうした活動を行っているのは当法人だけであり、支援メニューの拡大につながっていると感じている。これら地道な活動を丁寧に行っていることから、被災地域の保健師等専門職からの信頼を得ることができ、3月にはむかわ町の全 4,000 世帯への訪問調査活動を社協、役場、当法人の三者連携で実施することができるなど、被災者支援ネットワークの機能強化が図れている。
寄付者へのメッセージ	当法人では災害発生当日より被害が大きかった胆振東部3町を訪ね、行政、社協、NPO 等の各機関と連携を図りながら災害ボランティアセンターの開設を含む支援体制の構築に努めてきました。発生翌日からは当法人スタッフ1名を常駐させ、主にむかわ町及び厚真町における支援が円滑に行われるようコーディネートを行ってきました。こうしたコーディネート活動はあまり目につかない活動ではありますが、被災地域が抱える様々な課題に行政機関や社会福祉協議会と共に取り組み、解決に向けて各支援団体をつなぐなど被災者の生活再建に向けて大きな役割があったと感じています。当法人は胆振東部地域まで車で約1時間の位置にあり、現地までの移動にかかる燃料費や現地での滞在費、更には厳冬期の活動における防寒対策などに大きな負担を感じていましたが、災害ボランティア・NPO 活動サポート募金の助成を受けたことにより、2019年3月末日までの活動を行うことができました。本年は例年よりも少し早い雪融けとなりましたが、住宅の修繕などの生活の再建やこころの復興はこれからが本番だと思っています。これからも被災地域で被災された方々に寄り添い、丁寧な支援活動を継続していきたいと思っています。これからもご支援をお願いいたします。

(活動のようす)



第3報 被災者支援

被災者支援へ全400戸訪問

【むかわ町】町は、関係部署と連携して被災した住民の健康や生活状況を把握するため、17日から、道内の民間ボランティア団体と連携し、町内の全約4千戸を戸別訪問する。昨年、一部町民を対象に実施したアンケートで、地震後に身体や精神の不調を訴える回答が多く、町は調査結果をもとに今後の支援策を検討する。（小宮晃秋、高橋佑樹）

町は、昨年12月に町の巡回アセスメントを受けた住民らから、地震後の健康状態を把握するアンケートを実施。特に50～60代から「震や揺れに敏感に反応するようになった」「睡眠が不調」という答えがあった。町は地震後、高齢者や要支援者を対象に戸別訪問で健康や生活状況を把握してきたが、全町民の被災後の状況を把握が必要と判断。民間ボランティア団体と協議の上、町内全戸の訪問を決めた。

複数の民間団体が医療や介護関連の仕事の経験者を中心にボランティアを募集。17日から20日、被災地区の160戸を訪問する。ボランティアは、住民から健康状態や困り事を聞き取り、調査内容を町に報告する。町は被災ランティアセンターの運営に携わった一般社団法人ウエルビーデザイン（札幌）が民

間ボランティアと連携

むかわ町 あすから
健康状態、困り事聞き取り

関係者をとりまとめ、同法人の高橋勇太さん（41）は「困り事があっても誰にも言えず、悩んでいたが、全町民の被災後の状況を把握が必要と判断。民間ボランティア団体と協議の上、町内全戸の訪問を決めた。町健康福祉課の今井喜代子主幹は「今年の夏までに全戸訪問を終え、調査結果を今後の被災者支援につなげたい」と話している。

厚真町でも、町社会福祉協議会が民間ボランティア団体と連携して、1月末から町内全約2千戸を対象に戸別訪問を開始し、住宅被害状況や困り事を聞き取っている。現在までにうち7戸を回った。